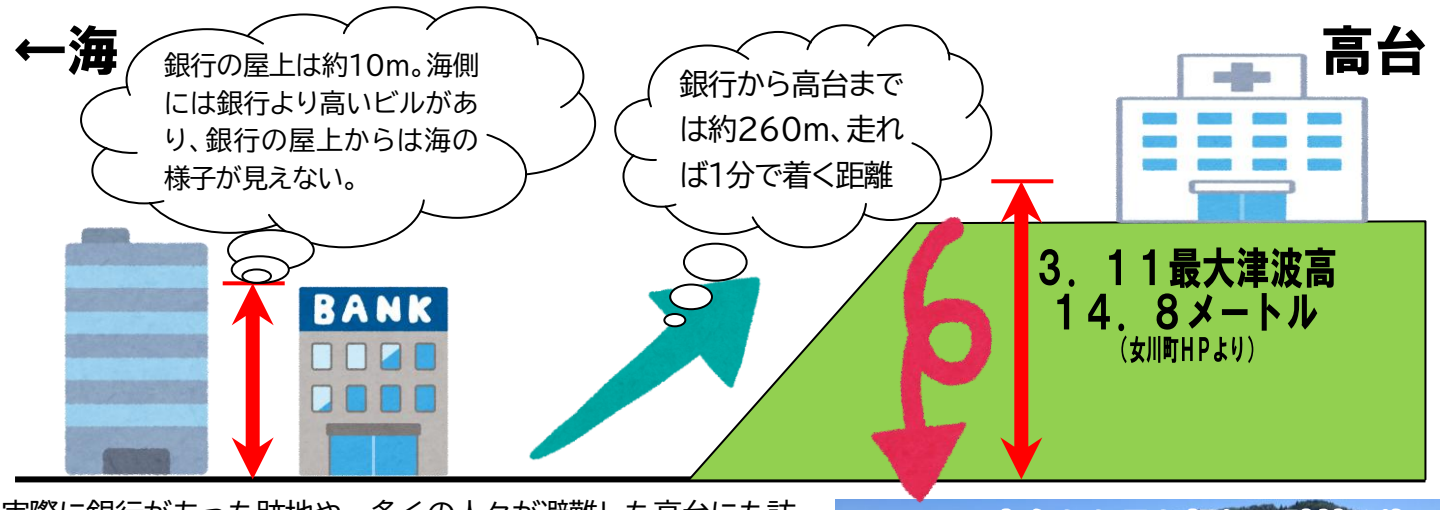
２０２６年１０月２７日 No.13
発行者：森田隼士　編　集：情宣部

おおふな

ＪＲ東労組 大船支部

「第３５回情報コンクール」最優秀機関研修
～東日本大震災から安全を学ぶ②～

研修２日目となる１０月７日は、田村さまにガイドをして頂きながら、女川町の現地踏査を行いました。



実際に銀行があった跡地や、多くの人々が避難した高台にも訪れました。実際に現地に立ってみると、銀行と高台とは想像以上の近さで、「これを見たらなぜ高台に避難することができなかったのか」と率直に感じました。別の参加者からも「海が目の前なのに高台ではなく屋上へ避難することを会社が指示したことが理解できない」と感想が出されました。高台の上には病院がありますが、津波は病院の１階部分にまで押し寄せたとのことで、改めて津波の恐ろしさを実感することができました。

その後は銀行跡地からほどなく近くにある「いのちの広場」を訪れ、献花を行いました。「いのちの広場」には犠牲になった大切な人を想い、行員の姿を表現したモニュメントが建立されています。モニュメントの周りにある玉砂利には、津波によって被災した銀行庁舎のレンガやガラス等の一部が置いてあります。「見る人が見たら瓦礫かもしれないけれど自分たちにとっては大切なもの」と田村さまが仰っていた姿が印象的でした。

近年は地震や津波のみならず、特に今夏～秋にかけては台風や線状降水帯等による大雨災害も相次いで発生しています。最近でも大雨や川の増水等で出勤できないと申告した大船運輸区分会の組合員に対し、管理者が「出勤していないのはあなただけ」「家の近所の様子を動画で撮影してほしい」等と言い放った事象も発生しました。命を最大の価値基軸に、安全で安心して働くことのできる職場づくりに向けて、日々奮闘していくことを改めて決意した研修でした！


高台から見た銀行の跡地や海


健太さんが野球部でずっと捕手だったことから考案されたポーズで記念撮影


玉砂利に置かれた銀行庁舎のレンガやガラス

命を最大の価値基軸に、安全で安心して働ける職場をつくり出そう！！